

【校長室の窓】 R 3年3月

巣立つ川高3年生の未来に大きな幸あれ！

川棚高等学校長 畑野 公昭

3月1日の卒業式は、やわらかな春の陽ざしがふりそそぎ、校舎から見える大村湾の水面も美しく煌めく、3年生の門出を祝うにふさわしい日和となりました。本年度も、新型コロナウイルス感染予防のため、已むなく、来賓、在校生の出席をとりやめ、保護者2名までの参加といたしました。

本来なら、在校生全員で卒業生を送り出し、別離の場を今後の励みにする機会とするところです。それが叶わないもどかしさを少しでも解消するため、今年は、卒業式の前日、3年生のPTA 記念品贈呈式や同窓会入会式を終えた後、生徒会が企画・運営して、中庭で在校生と3年生の「お別れ会」を実施しました。3年生がクラスごとに中庭に入場し、校舎のベランダに集まった在校生が拍手で迎え、3年生から一言挨拶があった後、拍手で送る催しでした。大人数での歌の練習が困難で本来のコーラスでの見送りができなかつた中で、この1年思うに任せない活動を強いられた3年生を拍手でねぎらい、はにかみながらも明るい笑顔を見せて去って行った3年生の姿は、きっと在校生の心の中に自分たちも頑張ろうという気持ちを湧き立たせてくれたのではないかと思います。

本年度は、普通科91名、生活総合科30名の計121名が本校を巣立ちました。卒業証書授与に当たっては、学級担任の呼名に応じて生徒一人ひとりの澄んだ返事が式場に響き、卒業証書を受け取った普通科代表の平尾海翔君、生活総合科代表の岩永太陽君の堂々とした態度は、3年間を川高で学んだ重みを胸に、代表としての責任を果たす立派なものでした。また、五反田彩菜さん（2年生）の先輩の労をねぎらい今後力強くエールを送った送辞、福島葵さんの友人、保護者、先生方への心のこもった感謝とこれからの決意に満ちた答辞は、とても感動的でした。ことに答辞の中で、突然の病で急逝された2年時の学年主任の千北圭祐先生への熱意とこまやかさのある指導に対する思いが切々と述べられ、先生の存在の大きさをあらためて振り返らせてくれました。3年生が立派に成長した姿に、千北先生、そして、サッカー部の顧問で、昨夏、病のため早逝された中村和樹先生のお二方とも、きっとあたたかな眼差しを注いでいたことと思います。

私からは、激動の幕末に活躍した勝海舟の「要するに処世の秘訣は、誠の一字だ」という言葉を、式辞の中で餞として送りました。デジタル化やAI化が進む変転著しい現代社会において、不確かな情報の操作や人の受動化の進行が懸念される中で、「自らのことばや行いにうそを交えず、ただ真心を尽くす」ことほど、自律した人としての生き方として大切なものはないと思います。実直な川高卒業生なら、きっとあるべき人の姿を見失うことなく、他者から信頼され、平和で幸せに満ちたよりよい社会を築いてくれる事と確信しています。願わくは、巣立つ川高3年生の未来に大きな幸あれ！